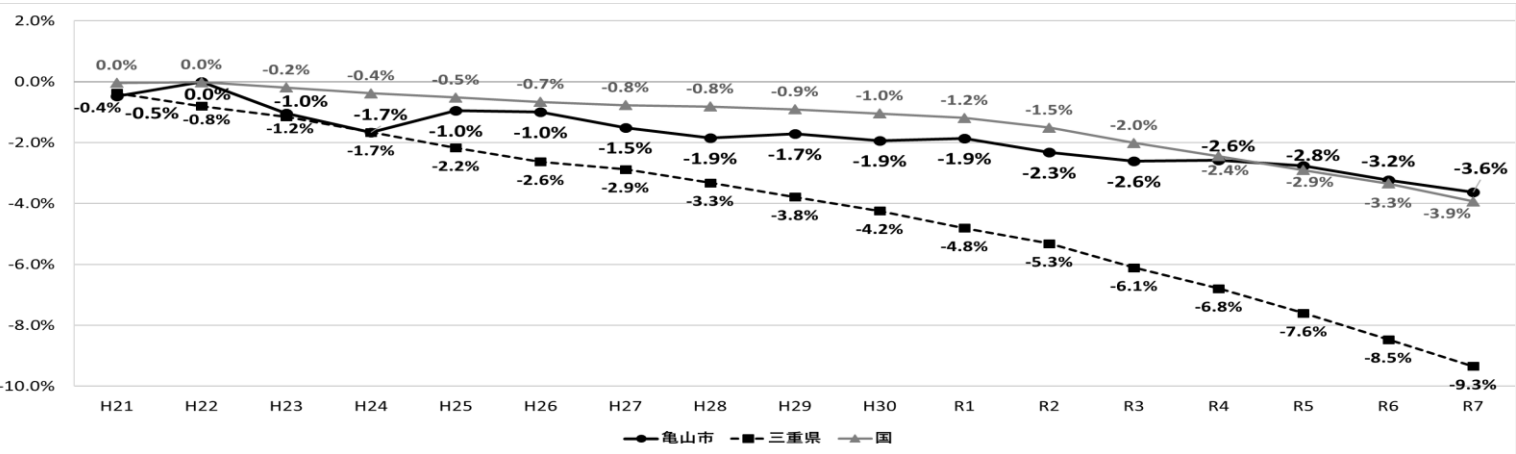


【本市の人口動態の概況】

■国・県との人口の動向の比較

国・三重県・亀山市のピーク人口（国・県は平成20年、本市は平成22年）から令和7年にかけての人口増減率を比較すると、国-3.9％・県-9.3％、市-3.6％となっています。人口減少は続いているものの、国・県と比較すると、本市の人口減少は緩やかに進行していることが分かります。

【国・県・亀山市における人口減少率の推移】



※各年10月1日現在人口を比較

■本市の人口推移

本市の総人口は、平成29年以降概ね横ばいで推移していますが、令和元年以降は減少が続いており、近年は減少幅の拡大傾向がみられます。一方、世帯数は増加傾向にあり、人口減少と併せて平均世帯人員が減少していることが分かります。また、外国人人口については、増加傾向が続く中、コロナ禍の影響等により令和3年・4年では一旦減少したものの、令和5年以降は、再び増加に転じています。

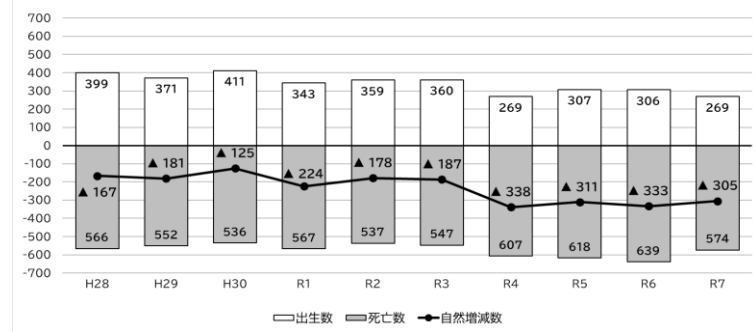
【人口・世帯数の推移】



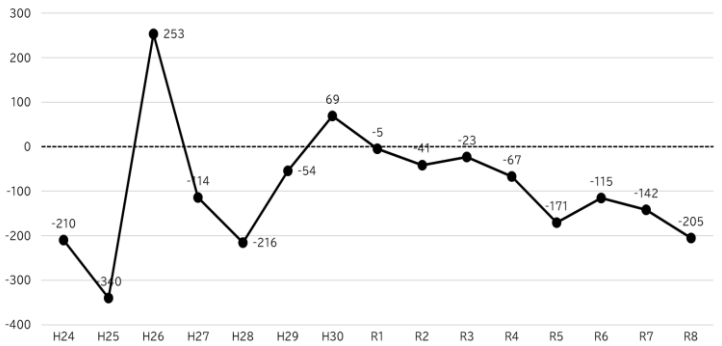
■本市の自然増減及び社会増減

本市の自然増減についてはマイナスで推移しており、特に令和4年度には出生数が大きく減少しマイナス幅が拡大しました。令和5年度においては、出生数が増加に転じたものの、死亡数も増加しており、300人を超える自然減が続いています。一方、社会増減は、転入・転出ともに年度間の差はあるものの、平成28年度以降は社会増の状態が続いており、年度平均174人程度の転入超過が続いています。

【自然増減の推移】

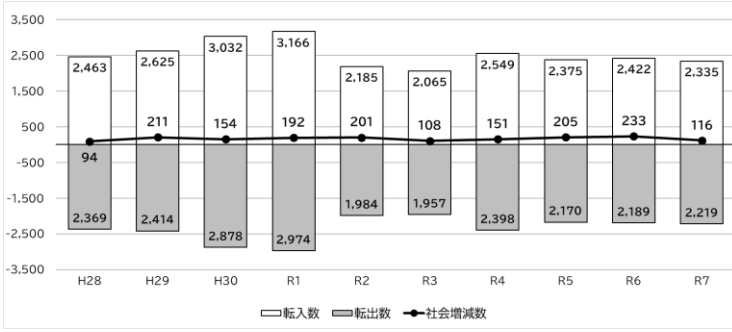


【総人口に対する増減の推移】



※各年4月1日現在

【社会増減の推移】



※各年度集計

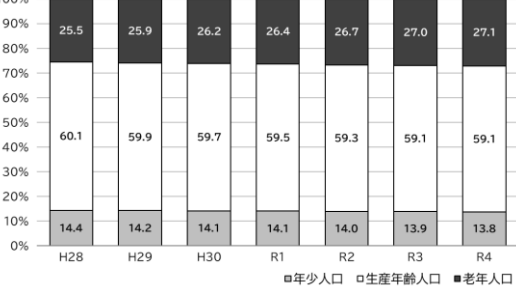
資料2

■本市の人口構成及び合計特殊出生率

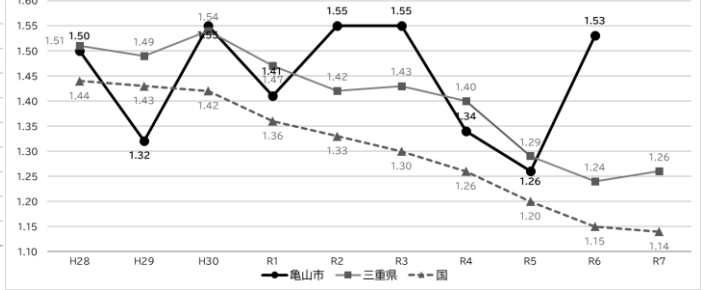
本市の人口構成は、老年人口比率が増加し、年少人口比率が減少傾向にある中で、生産年齢人口比率は、令和3年以降若干ではありますが、増加で推移しています。

また、本市の合計特殊出生率は、近年は横ばい傾向で推移してきましたが、令和6年は1.53となっており、前年度から0.27ポイント上昇しました。平成28年以降の本市の平均は1.45となっており、三重県とは同水準にあり、国の水準を上回っています。一方、国全体で見ると、平成27年は国・県・市ともほぼ同水準であったものが、平成28年以降は低下傾向が続いています。

【人口比率（年齢別）の推移】



【合計特殊出生率の推移】



本市の地区別人口は、平成23年と令和8年で比較した場合、井田川・川崎地区では増加、亀山地区では概ね横ばい、昼生・野登・白川・神辺・関・坂下・加太地区では減少しており、地区によって人口増減の傾向が異なっています。中でも、昼生・野登・白川・坂下・加太の5地区では、人口減少率が20％を上回っており、他地区と比べ、人口減少が早いペースで進んでいます。

また、本市の地区別人口比率（令和8年）について、年少人口は、亀山・井田川・川崎地区、生産年齢人口は、井田川・川崎・神辺地区において本市全体の平均を上回っています。地区によって人口比率に差が生じており、年少人口の比率が低い地区では人口減少が早いペースで進んでいます。

【地区別人口マップ】

